

未来は予言でできるか

(No.192 続き)

代表取締役 鈴木英介

前号で述べた事、成功の為の2冊の本。「孫子」と「五輪書」である。さらにその次をあげると、これも以前取り上げたことがあるが、マキャベリの「君主論」だ。(爽No.154)これは政治と統治について書かれた本だ。これもマニュアルだ。マキャベリは決して未来を予言してはいない。君主の統治に関する諸問題のノウハウを書いている。予言と言えばマキャベリは、この書の中で有名な言葉を残している。「武装せる予言者は勝利し、武器なき予言者は滅びる」つまり予言は武器によって成就するものであると言っている。

これを聞いて、まるでオウム真理教のようだと思う人もいる。

のだろう。ノウハウを書く者は予言をしない。逆に予言者は些末な現在の技術情報は扱わない。

孫子や宮本武蔵など、その道の達人は皆ノウハウを残している。武蔵だつて二刀流が正しい。兵法だなどとは言っていない。一本より二本が強いと言っているだけである。そもそも強くなるため、勝つ工夫をしない人間はだめだと言っている。

そのノウハウを読み、実践する人は意外と少ない。皆が読んで実践すれば勝ち組だらけで、負ける人はいなくなるのではないか。特に戦国時代、毎日が戦いの連続で、生き残るのに必死

しかし歴史上、未来のあるべき姿を主張する者は、その実現の為に闘ってきたのではないか。「予言」と言えばオウムだが、「理想」と言えば英雄なのか。

そもそも多くの人が聞いたがるものは、「未来はこうなる」「世界はこの様でなければならぬ」とするものである。人は現在の些末なノウハウは聞きたがらない。未来のあるべき姿が知りたいし、分かるはずだと思っている。かのアインシュタインでさえ「神がサイコロを振ると思えない」と言ったそうさ。

かつて「予言」は宗教者の仕事であった。その後、その役割

な時、孫子を読んで皆が武田信玄になったらどうなるのだろうか。しかし実際には、孫子を読んだのは武田信玄だけだったようだ。他の武将の書いたものや、言葉に孫子は出てこない。

そもそも多くの戦国の武士は「孫子」を知らない。たまたま目にしても理解できる人は少なかったのではないか。「風林火山」の旗を見て、孫子の言葉と知る人はいなかったと思う。当時、本は手に入れる事さえ難しく、しかも「孫子」は中国語で書いてあるので、理解できる人も限られていたと思う。こう言う私も、脚注があり、本文にはルビをふり、レ点や一、二点があるので読めるのである。

しかも戦国時代に義務教育があったはずもない。有力者であれば教育は家庭や寺などで教わる。武田信玄は甲斐の守護、武田家19代当主であり、戦国大名の中では最も筋目の正しい者の一人である。当然僧などから漢文の教育は受けたであろう。

は哲学者に移り、現代では哲学書は誰も読まない。そして今、その役割が期待されているのは経済学者である。多くの経済学者は経済の法則を見つけ出し、その法則に基づいて未来を予言する。これは多くの人の欲求に基づいている。現代は経済第一の社会だからだ。

現代に生きている我々は、そのような事は当たり前と思っっている。しかしほんの少し前までは、大事な事は「筋目」「仁義」だったり、「真善美」「神の言葉」であった。それに対して物質的利益を求めめるものは卑しい者と思われていた。

しかし時代は変わり、今は誰でも経済的繁栄、社会的成功を

これに対して宮本武蔵は下級武士の出だ。しかも社会の混乱していた戦国末期で、まともな教育など受けていなかったと思う。それゆえ後の人はこの「五輪書」の事を「ひらがなが多すぎる」などと言っている。(二刀流口訣条々覚書) 当時は「かなまじり文」など百姓町人の書くものと思われていた。

ひるがえって現代においても、これらの本は読まれていない。おそらく、これらの本の推奨する道は困難な道であり、多くの人の進みたくなくなる道ではないのだ。「滅びに至る門は大きく、その道は広い」(福音書)と言われるとおりだ。

多くの人は山に登るのに、自分の足を使わず、ヘリコプターでいきなり山頂に行くような事を考えている。少なくとも七つの事を習慣とすれば、立派な人格が形成されるように言う。実際には山頂への道は何万歩の積

求めている。そしてそれを保証する事こそが国家の役割だと言われている。金と商品に満たされてこそ幸福があり、それを万人に与える法則があるはずだと言う。

現代世界の繁栄は経済の成長によつていいる。それは様々な知的発見、技術発明による事は間違いない。しかしそこには、それを貫く何らかの法則があるのだろうか。少なくとも現代において、全てを矛盾なく説明する経済法則は明らかになっていない。むしろ未来は予測不能なものだと言う方が的を射ている気がする。

それなのになぜ昔から、人は予言を求め、ノウハウを軽視す

み重ねなのだ。一步より二歩、三歩と同じ道を前に進む者が山頂に到達する。「新しい方向に進めば新しいチーズがみつかる」(チーズはどこに消えた)などと無責任に断言するわけにはいかない。

そのため先人の経験を学ぶことは有効だ。現代でもその道に長けた人の書いたものは参考になる。多くのノウハウ本は筆者が試行錯誤し、得た知識が書いてある。これらは実践者にしか書けない事なのだ。

たとえそのテーマが今、必要とされるものではないとしても、自分の立場に引き寄せて考えると納得できる。それらは普遍的真理でさえある。宮本武蔵の剣と、私たちの使うモップが同じとはそういう事である。仕事の基本原理には共通項がある。

一步先の事であれば何とか予想できる。その一步を踏み出すものが未来をつかむことができる。未来はその先にある。

